

## まちのできごと



### 大野田福祉の会「ご近所のつどい」

新型コロナの収束で大野田福祉の会の活動も始まりしました。7月10日(月)「わくらす武蔵野」のオーリーブホールで久しぶりの「ご近所のつどい」を開催し、30人以上の参加がありました。テーマは「いざという時の助け合い」、市役所防災課からお話をうかがい、日ごろの備えとなる防災食と携帯トイレを配布しました。(北町五丁目町会)

### 活動の中で季節を感じるとき

4月23日(日)緑町三丁目町会通常総会が開催され、2023年度の活動がスタートしました。町内歩道の生垣にはツツジやアジサイの花、千川上水にはシラサギが飛来したりと、季節の移り変わりを感じながら、町内パトロールや市道41号線沿いに設置した花壇の手入れを続けています。下校時刻には子どもたちの表情を見ながら会話ができる場面も増え、ほっと気持ちが和らぐひとときになっています。(緑町三丁目町会)

### 防災訓練ではしご車も出動

7月2日(日)防災委員の方々の協力で防災訓練を行い、子どもたちを含め約200名が参加しました。

B7号棟前で、はしご車による救出を見学後、起震車で震度7の体験や、ベランダから隔板を破る脱出訓練、初期消火訓練、通報訓練など多くの体験ができました。また家具転倒防止、非常食、非常用トイレなどの受付と販売も行い、楽しく貴重な1日になりました。(武蔵野緑町パークタウン自治会)

### 語らいながら花壇の手入れを

第2都営の6棟には、それぞれ大きさも形も異なる花壇があります。月一度の清掃では草むしりや剪定をしながら会話がはずみます。「各棟の四季の草花を眺めると心が和むから、散歩の足を伸ばしたのよ」とうれい声を掛けていただくことも。行動の規制が緩やかになり、人々の交流も戻って来ました。

(武蔵野緑町二丁目第2アパート自治会)

## 活動報告

### 2023年度 運営協議会委員

会長	根岸 泰広 (武蔵野緑町パークタウン自治会)
副会長	狩野 耕一郎 (緑町三丁目町会)
会計	島森 和子 (北町五丁目町会)
監査	萩尾 昌枝 (緑町二丁目第2アパート自治会)
会計監査	花輪 栄一 (緑町三丁目町会)
	高橋 豊 (北町五丁目町会)
	村井 寿夫 (北町五丁目町会)
	興梶 信子 (武蔵野緑町パークタウン自治会)
	押元 綾子 (緑町三丁目町会)
	大塚 省人 (環境部長)
	田中丸 善史 (クリーンセンター担当課長)

### クリーンセンターは武蔵野市の象徴であり宝です

クリーンセンター運営協議会会長 根岸 泰広

私たちの生活になくってはならないクリーンセンターですが、一方で環境面や安全面での不安を完全に拭い去ることはできません。運営協議会の役割は、クリーンセンターを運営する市とサービスを受ける市民との接点となり、情報を共有することにより信頼関係を維持することにあります。そのためにはみなさまに関心を持っていただくこととご協力が欠かせません。引き続きよろしく願いいたします。

\*編集後記\* 委員研修で資源ごみの再生や新技術の現場を見学し、二ツ塚処分場の埋立てが2018年以降ゼロであると知りました。谷戸沢処分場では自然回復が進んでいます。しかし、これからも二酸化炭素を出しながら武蔵野市の資源ごみや焼却灰は運ばれます。さらなるごみ減量の必要性を改めて感じました。(村井寿夫)

### ●2022年度 運営協議会 決算

収 入		支 出	
市補助金	1,000,000	事務費	4,180
その他の収入	29,006	広報費	287,501
		事業費	251,579
		会議費	0
		備品費	0
		交際費	0
		予備費	0
計	1,029,006	計	543,260
		市への返却金	485,746

### ●2023年度 運営協議会 予算

収 入		支 出	
市補助金	1,000,000	事務費	10,000
その他の収入	60,000	広報費	270,000
		事業費	760,000
		会議費	5,000
		備品費	10,000
		交際費	5,000
		予備費	0
計	1,060,000	計	1,060,000

編集・発行/武蔵野クリーンセンター運営協議会  
〒180-0012 武蔵野市緑町3-1-5  
武蔵野クリーンセンター内  
電話: 0422-54-1221

●武蔵野市ホームページ  
<https://www.city.musashino.lg.jp/>

\*この広報は、再生紙を使用しています。

# 武蔵野クリーンセンター 運営協議会 だより 83

武蔵野クリーンセンター運営協議会とは  
1984年施設建設時に地域住民の安全と権利を守るために設置された  
周辺3地域4団体が参加するクリーンセンター運営の監視役。

## 委員研修報告 私たちの出すごみのゆくえ

運営協議会では議論する上で必要な専門知識の学習のために、年1回研修として施設見学を行っています。

今年は武蔵野市の「資源ごみ」と「不燃ごみ」、「可燃ごみの焼却灰」がどのように処理されるのかをたどりました。

### 加藤商事リサイクルプラント

まず、瑞穂町にある資源ごみの処理をする加藤商事西多摩支店に行きました。

このリサイクルプラントは、空きびん・空き缶の再生選別、ペットボトル、容器包装プラスチックを扱う資源ごみの中間処理施設で、武蔵野市を含む西多摩地域のごみの減量化と再資源化促進のために1991年に開設されました。

#### ●資源ごみの受け入れ状況

2022年度は、武蔵野市のびん・缶・ペットボトル・容器包装プラスチックを受け入れており、週にびん・缶・ペットボトルを各5台、容器包装プラスチックは10台の収集車で搬入しています。ほかに青梅市・羽村市・福生市・小金井市・瑞穂町の資源ごみを受け入れており、毎日約35人が作業に従事しています。

#### ●容器包装プラスチック

外に積まれている容器包装プラスチックを圧縮した立方体「ベール」は、1つ約200キログラム、大きさは自治体により異なります。建物内では容器包装プラスチックの手選別・洗浄・圧縮梱包が行われています。作業には大変手間がかかり、最も多くの人手が必要で、ごみ出しマナーの徹底が重要だと実感されます。

## CONTENTS

P.1...委員研修報告

## 私たちの出す ごみのゆくえ

P.3...「小型家電リサイクル」って、  
知っていますか?

P.4...まちのできごと 活動報告



▲容器包装プラスチックの手選別作業。混入した異物を取り除きます。異物は、排出した自治体に戻されます。

◀飛散防止のためベール化して積み上げ一時保管後、再商品化事業者へ引き渡されます。

#### ●びん・缶

缶はアルミとスチールに磁石で分別され、再利用以外のびんは3色(茶・混合・白)に分けて再生工場に送られます。ガラスは、800~1,000℃の高熱で溶かすため、ラベルを剥がす必要はありません。ビールびんは再利用されますが、1升びんの再利用は、近年扱いが減少しています。

#### ●ペットボトルの受け入れ量

ペットボトルはフレークに粉砕して再生材料になりますが、近年はペットボトルの原材料になることが増えています。新型コロナ以降、企業からのペットボトルごみは減りましたが、家庭からの量は増え、トータルを受け入れ量はあまり変わりません。





◀エコセメント化施設の前に広がる  
二ツ塚処分場の埋立地。



▲エコセメント製の道路の側溝や縁石の展示。

## 二ツ塚処分場

次に視察した日の出町の二ツ塚処分場は、多摩地域25市1町約400万人の家庭から出るごみの最終処分場として1998年操業以来、焼却灰と不燃ごみを埋立処理していました。7年後にはすでに約4割相当が埋まり、逼迫した状況になりました。新たな処分場建設は用地確保や周辺環境整備などが難しいため、焼却灰をエコセメントの原料として再生利用する都内唯一の「エコセメント化施設」を敷地内に建設(2006年7月稼働)しました。その施設の一部を見学しました。

### ●エコセメント化施設

まず「中央操作室」では、4人1組(3交代)の24時間体制で、役割分担して以下の業務にあたります。

- ①製造工程の進展状況をモニターで監視(エコセメントは1,350℃以上の高温で排ガス処理が必要)
- ②施設内パトロール
- ③エコセメントの品質チェック

続いて「灰ピット」。ひとつかみ3トンの大きなクレーンで灰を攪拌、均一化します。焼却灰の1日平均処理量は300トン、エコセメント生産量は1日平均430トンになります。

エコセメントは日本工業規格(JIS)に定められた土木建築資材で、普通のセメントと同等の品質を確保しています。これまでに190万トンが出荷され、道路の側溝や縁石、点字ブロック、公園整備などに幅広く利用されています。

### ●埋立処分量“ゼロ”を継続中

開場当時二ツ塚処分場では、満杯になった谷戸沢処分場に代わり、可燃ごみの焼却灰や破碎した不燃ごみをすべて埋立処理していました。

管理・運営については、日の出町と地元自治会で『公害防止協定』を締結し、ごみの搬入、埋立作業、周辺環境への影響を抑え、安全な操業が進められています。

その後、焼却灰全量がエコセメント化され、ごみの減量化やリサイクル推進による不燃ごみの減少により、2018年度以降埋立処分はされていません。(これまで埋立地の44.7%を埋立済み)こうして焼却灰をエコセメント化することで、処分場の使用期間を大幅に延ばしました。

### ●谷戸沢処分場の今

1984年～1998年の14年間稼働し埋立を終了した谷戸沢処分場。その後も化学的視点の調査(浸出水や発生ガスの監視、モニタリングや浄化処理)及び生態モニタリング調査など周辺環境に影響を与えないよう適切に維持管理されています。

旧管理センターを改修した谷戸沢記念館では、処分場の移り変わりや里山的自然環境の再生状況を写真や標本で紹介しています。処分場内では、1,500種の動植物の生息が確認されており、トウキョウサンショウウオ、国蝶オオムラサキ、カヤネズミなどの希少な生物が、さらには2016年大型巣箱を設置したところ、生態ピラミッドの頂点に位置するフクロウの営巣、抱卵、ヒナの巣立ちが確認され、以降毎年ヒナの巣立ちを見守っています。これは豊かな自然環境の再生が順調に進んでいる証です。

## これからの資源ごみ処理

2022年4月「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が施行され、今後プラスチックごみの量の拡大が予想されます。加藤商事は現在、資源循環の対象となる「製品プラスチック」の処理に対応する施設として、第二工場を建設中です。新工場は、光学式選別機など新技術の導入により回収量の拡大を図ることです。

問題は、加藤商事から出荷された圧縮したプラスチック中に見逃したリチウムイオン電池が混入していると、再生業者での事故につながりかねないことです。「くれぐれもプラスチックごみにリチウムイオン電池を混入しないで欲しい」との願いがありました。

今回の研修を通して、日々の生活と直結しているごみ処理問題に終わりのないことを痛感しました。物質的に豊かで便利な社会では、大量に発生するごみによりさまざまな環境問題が生じています。環境への負荷を減らし、限りある資源を有効利用するためのさらなる方策を考え、循環型社会を目指していくことが必要です。改めて一消費者として、日々の買い物や廃棄する過程でごみを減らす、3Rの取り組みを情報収集しながら実践していきましょう。

# 「小型家電リサイクル」って、知っていますか？

冷蔵庫・冷凍庫、洗濯機・乾燥機、テレビ、エアコンの4品目は、2001年に定められた「家電リサイクル法」の対象としてリサイクルされてきました。これ以外の小型家電機器を対象として「小型家電リサイクル法」(2013年4月施行)ができました。

武蔵野市では、この「小型家電リサイクル法」施行に先駆けて、2011年4月よりクリーンセンターに「都市鉱山開発事務所」を開設し、使用済みの小型家電機器のリサイクルに取り組んでいます。

小型家電機器には、金・銀などの貴金属、銅や鉄などの有用なベースメタル、パラジウムやチタンなどのレアメタル(希少金属)が多く含まれています。レアメタルは、自動車やIT製品などの製造に不可欠な原材料ですが採掘量が少なく、安定して確保するためにもリサイクルが重要となっています。

## 小型家電リサイクルの対象にはどんなものがあるの？

小型家電リサイクルの対象は、携帯電話、ICレコーダー、デジタルカメラ、時計、ドライヤー、電卓、電子辞書、携帯ゲーム機、アイロン、リモコン、電話機、ラジオ、USB、リモコン、コード、電子レンジ、プリンター、ビデオ(DVD)デッキ、掃除機、炊飯器、扇風機、除湿器、マッサージ機など28品目あります。

実際に2022年度に回収された主な家電機器は、掃除機 2,569台、電子レンジ 1,626台、扇風機 1,267台などがあるとのこと。

## どんな方法で回収しているの？

武蔵野市では、次のような3つの方法で小型家電を回収しています。

### ①小型家電回収ボックス

回収ボックスは、市役所、むさしのエコreゾーン、コミュニティセンターなど、市内20カ所に設置されています。回収ボックスに入る大きさは30cm×15cm。2020年東京オリンピック・パラリンピックのメダルを作成する「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」が、設置のきっかけとなりました。

### ②宅急便回収

自宅から宅急便を活用して、小型家電を直接回収します。武蔵野市は、国の認定事業者であるリネットジャパンリサイクルと連携協定を締結し、2018年より事業を行い、回収された家電は事業者が資源化しています。2022年度は20.4トンの回収実績があります。回収は有料で、1箱1,500円(税別)。(パソコン本体が含まれる場合は無料)

### ③不燃・粗大ごみから取り出し

不燃・粗大ごみとして出されたごみの中から小型家電を取り出し、「都市鉱山開発事務所」に運びます。



「都市鉱山開発事務所」での作業の様子。不燃・粗大ごみの中の小型家電を分解して、基盤やコードなどを取り出し、分別します。

分別された基盤類とコード類。この中に原材料になる金属類が含まれています。

## 「都市鉱山開発事務所」って何をやるどころ？

クリーンセンター管理棟2階にある「都市鉱山開発事務所」では、集められた小型家電を分解します。シルバー人材センターの方やアシスタントなど、常時5名が作業にあたっています。基盤類、コード類、電動機変圧機器などのレアメタルが含まれる部位を取り出し、認定事業者に搬出します。

## 今後の課題は“リチウムイオン電池”

リチウムイオン電池を使っている小型家電の中には、電池の取り外しができず、分解が困難なものが増えていて、適切な分別・処理が難しくなっていることが課題となっています。

### ◆小型家電拠点回収について

詳しくは、右の二次元コードから武蔵野市のホームページをご覧ください。

